

書道 I

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択必修履修	2	6	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
東京書籍002-901「書道Ⅰ」		大修館書店「高校硬筆練習帳」		
学 習 目 標				
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。 (2)書のよさや美しさを甘受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える。 (3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していこうとする。				
学習内容				
用具・用材、姿勢・執筆法について、漢字の書…漢字の成り立ちと変遷、楷書の古典と臨書、鑑賞（楷書「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」、唐の四大家、「牛橛造像記」、行書「蘭亭序」「争坐位文稿」「風信帖」、草書「真草千字文」、隸書「礼器碑」「曹全碑」、篆書「泰山刻石」）、仮名の書…仮名の成立、単体と連綿、変体仮名、古筆の臨書「蓬萊切」「高野切第三種」「関戸本古今和歌集」、漢字かな交じりの書…古典を生かした表現、用具・用材による表現、作品制作と鑑賞、実用書…便箋、贈答の書き方				
授業の進め方、課題・提出物など				
書を表現するための様々な道具の名称や使い方を学習し、漢字や仮名の書を芸術の立場から表現できるように技術を伸ばす。また、漢字や仮名の移り変わりを学び、書の美しさを感じ取れるような鑑賞力も身につけられることを目指す。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及びスクーリング内での結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 R1回提出で1点 計6点 S1回 2点 計16点 それ以上はRの平均点61～70点加算なし 71～84点 +5点 85～100点 +8点 Sの9回目出席より1回 +1点 上限30点				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを甘受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。		主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していこうとしている。	
担 当 者 よ り				
・「書道」では、古典の臨書活動、鑑賞を基盤に、様々な書体や書風、表現方法を学んでいきます。 ・スクーリング出席には、教科書、筆記用具のほかに書道道具一式(大筆・小筆・硯・文鎮・下敷き)が必要になります。忘れ物があると参加できないので、十分に気を付けましょう。				

美術 I

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択必修履修	2	6	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
日本文教出版702「高校生の美術Ⅰ」		なし		
学 習 目 標				
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって、美術文化に対する見方や感じ方を深める。 (3)主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯に渡って美術を愛好する心情を育み、感性を高め、美術文化に親しむ。				
学習内容				
静物・人物・風景などの絵画(水彩絵の具、鉛筆デッサン) レタリングなどの技術面や・コンセプトの立て方など思考面のデザインの基礎 映像メディアなどの鑑賞				
授業の進め方、課題・提出物など				
スクーリングは実技中心で、素描、色彩の基本から絵画の技法を身につけながら、デッサン、色彩構成、想像画などに取り組みます。レポートでは身の回りの生活の中から題材を取り上げて、楽しんで制作できる課題に取り組みます。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及びスクーリング内での結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 R1回提出で1点 計6点 S1回 2点 計16点 それ以上はRの平均点61～70点加算なし 71～84点 +5点 85～100点 +8点 Sの9回目出席より1回 +1点 上限30点				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり価値意識をもって、美術文化に対する見方や感じ方を深めることができる。		主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯に渡って美術を愛好する心情を育み、感性を高め、美術文化に親しもうとする。	
担 当 者 よ り				
実技では鉛筆や水彩絵の具など道具を指定する時間がある。その時間は、指定の道具を持っていないと受講できないので持ち物に気を付けること。授業内で描いた作品が単位認定試験の代わりとなるので、毎時間しっかりと取り組むこと。				

音楽 I

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択必修履修	2	6	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
教育芸術027-902「高校生の音楽Ⅰ」		教育出版「Music Navigation 新版」		
学習目標				
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 (2)自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく。				
学習内容				
歌唱(日本語、イタリア語、ドイツ語、フランス語より)、楽典、日本音楽史、西洋音楽史、民俗音楽、作曲(創作)、音楽鑑賞、器楽実技(アルトリコーダー、ハンドベル、電子キーボードなど)				
授業の進め方、課題・提出物など				
楽器演奏や歌唱などの実技を行うことと、音楽理論、作曲法、楽典など音楽理論の基礎についても学びます。また、音楽史や世界の民族音楽を通して、音楽が作られた文化的歴史的背景や音楽構造の基礎を学びます。学習を通して、あなた自身が今後も音楽を楽しみ、演奏ができるような基礎を作ります。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及びスクーリング内の実技の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 R1回提出で1点 計6点 S1回 2点 計16点 それ以上はRの平均点61～70点加点なし 71～84点 +5点 85～100点 +8点 Sの9回目出席より1回 +1点 上限30点				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく。	
担当者より				
実技は一人で音を出して発表するという形は取らず、みんなで演奏しますので、安心して参加してください。 実技以外の授業では、どんなことを学習したか、あなたはどうか考えたかを問いますので、書けるようにしっかり授業を聞きましょう。				

音楽Ⅱ

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択	2	6	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
大修館書店701「音楽Ⅱ Tutti+」		教育出版「Music Navigation 新版」		
学 習 目 標				
音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 (2)個性豊かに音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聞く。 (3)主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく。				
学 習 内 容				
歌唱（日本語、イタリア語、ドイツ語、フランス語より）、楽典、日本音楽史、西洋音楽史、民俗音楽、作曲（創作）、音楽鑑賞、器楽実技（アルトリコーダー、ハンドベル、電子キーボードなど） 音楽Ⅰより発展的な内容を学びます。				
授業の進め方、課題・提出物など				
楽器演奏や歌唱などの実技を行うことと、音楽理論、作曲法、楽典など音楽の理論についても学びます。また、音楽史や世界の民族音楽を通して、音楽が作られた文化的歴史的背景や音楽の構造を学びます。音楽Ⅰで学んだことをさらに深め、あなた自身が今後も音楽を楽しみ、演奏ができるような基礎を作ります。音楽Ⅰより発展的な内容を学びます。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及びスクーリング内での実技の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 R1回提出で1点 計6点 S1回 2点 計16点 それ以上はRの平均点61～70点加点なし 71～84点 +5点 85～100点 +8点 Sの9回目出席より1回 +1点 上限30点				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	個性豊かに音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聞くことができる。		主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく。	
担 当 者 よ り				
音楽Ⅰより実技の難易度は上がりますが、音楽Ⅰと同様に一人で音を出して発表するという形は取らず、みんなで演奏します。 実技以外の授業では、どんなことを学習したか、あなたはどうか考えたかを問いますので、書けるようにしっかり授業を聞きましょう。				

ピアノ基礎

長尾谷高等学校

履修区分	単位数	レポート提出回数	最低出席時数	試験
選択	2	6	8	なし
教科書		学習書・副教材等		
なし		指導者作成テキスト		
学 習 目 標				
器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、基本的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)曲想と音楽の構造を理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。 (2)個性豊かに音楽表現を工夫することや、音楽の良さや美しさを深く味わって聞くことができる。 (3)主体的にピアノ演奏に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を持ち、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく。				
学 習 内 容				
ト音記号とヘ音記号を同時に読む。指番号を覚える。片手ずつ演奏する。両手で演奏する。伴奏は単音から基本的なコードまで修得する。弾き歌いに挑戦する。移調奏に挑戦する。				
授業の進め方、課題・提出物など				
ピアノ初心者対象に、ト音記号とヘ音記号の読み方を覚えること、両手で演奏すること、弾き歌いができるようにします。将来保育士や小学校教諭を目指す人を対象にしており、授業で扱う曲は童謡を中心とした曲になっています。				
評価基準と評価方法				
【単位認定の条件】次の①～③をすべて満たすことを単位認定の条件とする。 ①必要出席時数以上スクーリングに出席すること。 ②すべてのレポートを提出し、すべて60点以上の評価を受けること。 ③平常点及びスクーリング内での実技の結果を総合的に評価し、評点が35点以上であること。 ※①及び②のみ満たした場合は履修のみ認定する。				
【平常点について】 平常点30点の内訳 R1回提出で1点計6点 S1回 2点計16点 それ以上はRの平均点61～70点 +2点、71～84点 +6点、85～100点 +8点				
知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
曲想と音楽の構造を理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	個性豊かに音楽表現を工夫することや、音楽の良さや美しさを深く味わって聞くことができる。		主体的にピアノ演奏に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を持ち、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。	
担 当 者 よ り				
初心者対象の授業ですが、授業を通して両手で演奏し、弾き歌いができるようにします。そのため1時間でも欠席するとその後の進度についていくのが大変ですので、遅刻や欠席をしないようにしましょう。				